



第九十一号

柳井市白壁の町並みを
守る会
事務局(皿田治)
TEL 090-1012-4204

『身の丈に應じてコツコツ』

会長 木阪泰之

去る5月13日(金)18時より、時間、規模とも引き続きコンパクトとはいえ再び文化福祉会館を会場に移し総会を開催することが叶いました(3年振りの通常開催)。

昨年度は、町並み資料館にて書面決議での対応でしたので大変嬉しく存じます。実施に向けてご尽力、ご協力いただきました皆様方には心より感謝申し上げます。会員数51名中、出席者19名、委任状34名で総会は成立致しました。令和3年度事業報告(木阪)の後、会計報告(皿田)、監査報告(岸井)と続き、拍手で決議(承認)されました。

役員改選におきましては、監査が林さんから久保さんにバトンタッチされ、河本さんと熊谷さんが新幹事に、その他は全員再任となりました。林さんには引き続き一会員としてお力添えを頂きたく存じます。

また新監査の久保さんは大学生時代に当町並みの研究に関わって頂き、ご卒業後県外にて就職されるもご縁が有ってこの度当会監査にご就任頂きました。大変ありがたく頼もしく感じております。

令和4年度は、『指針』として『学・遊・働』

交を意識し、小さくともキラリと光る尖った町並みで在り続けよう』を掲げました。具体的には既にお渡ししております総会資料をご覧頂ければと存じます。

その中でも、青森県弘前市との交流活動の継続実施の項目にしましては、柳井市観光協会様の弘前ねぶた制作事業への協力を行っており、6月11日、8月6日迄の凡そ一ヶ月半を掛けて、柳井の地(白壁の町並み)で弘前ねぶたを製作します。

期間中は毎週土日に弘前よりご担当者様にお運びいただき制作指示を仰ぎ、有志を中心に制作に勤しんでおります。その数、直接間接を含め50余名に上ります。

特に7月15、17日は弘前より絵師の方を含めて3名の方が来柳され、地元の皆様と絵付け、塗りが行われます。國森家におかれましてはその会場のひとつとしてご協力いただきありがとうございます。

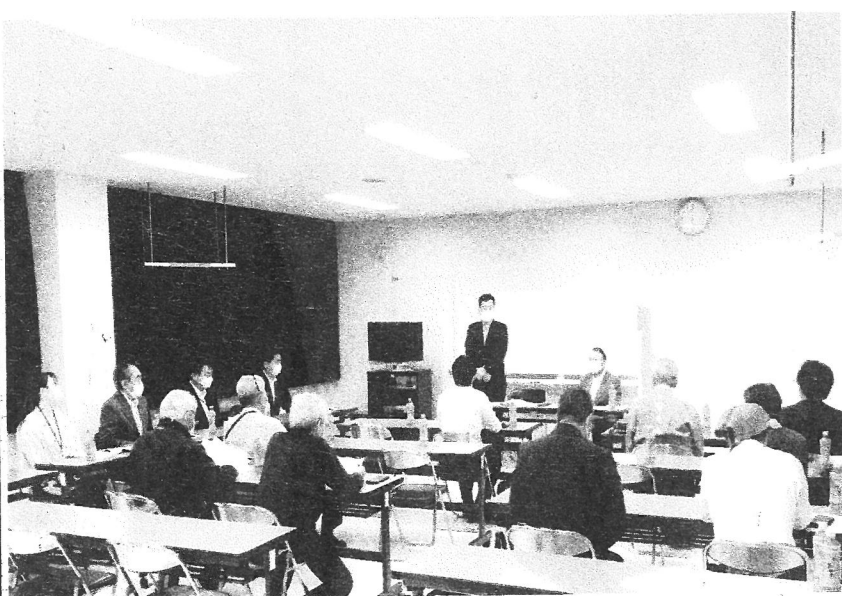
今回、見送り絵の部分に、金魚ねぶたと、金魚ちようちん、がデザインされるとのこと、これはサプライズな展開です。令和元年当会40周年記念行事が契機となり、金魚ちようちんのルーツである弘前の皆様との交流が一段と深まり、ジワジワと拡がりを見せていることは、柳井史上意義深いことと感じております。

また、きらめき活動助成金も無事承認され相乗効果を生むことが期待されています。

ウィズ・コロナ下での当会活動にしましては、在住の方を含め、町並みに関心を持ち活動していただける方を募り、ご理解を頂け

る方々が町並みで暮らす、起業する土壌をつくる・・・次代へのバトンタッチを常に考えていければと考えております。決して無理をしない。新しいことを始める場合は、既存事業を精査する等、実施する事業は絶えずアップデートしてその精度を高めていきたいと考えております。

令和6年には、重要伝統的建造物群保存地区に選定40周年を迎えます。引き続き、柳井市白壁の町並みを守る会の運営に関しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



第二十二回七夕まつり開催

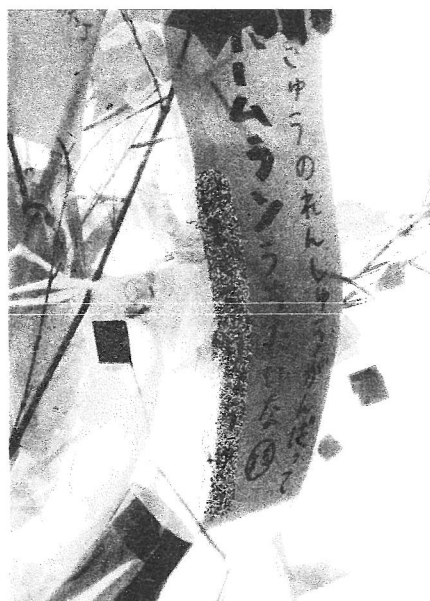
第二十二回 七夕まつり開催

今年もやって来ました。二十二回目となる白壁の伝統行事。真つ白な白壁通りの民家の軒先が20本の色鮮やかな七夕飾りで彩られました。6月30日午後尾林呉服店駐車場に竹取り班が集合。今年はいつものむさ苦しいオジサン連中だけではなくうら若き女性二名が竹取りに参加。そのせいか男性陣は例年になく張り切ったのであります。市所有・竹林は毎年のように竹取りを行っているので適当なサイズの竹が少なく苦勞の末ようやく予備を含んで24本の



竹を伐採。
短冊と笹飾りは市内の7つの幼稚園、保育園（所）の園児たちの作品だ。いつものことだが子供たちには願ひ事には思わず笑ってしまう

ものが多い。どんな願いごとをしたのかな？ちよつと覗いてみましょう。「やきゅうのれんしゅうをがんばってホームランをうちたいな？」



「はしるのがはやくなりますように」
いいよ、いいよ大谷翔平目指して頑張れ！「みんなでおすしやさんにいきたいな」「あいすくりーむがいったべられますように」「そらをとんでくものうえでおかしをたべたいな」食い意地の張った子が多いな」「きゅあすぱいしーにあいたいな」「おおきくなつたらすーぱーえぐぜいどになりたいな」これらはおじさんとしては何のこともなかサツパリ分からのだ。ひらがなばかりでさぞかしお疲れでしょう。どうか子供たちに免じてお許し下さい。

7月5日午後台風が山口県に最接近
最大風速25mの報に大慌てで七夕を撤
収。結果は無残にも大外れ。台風がそ
れたことは結果論ですので幼稚園、保
育園の皆さんどうかお許し下さい。と
もあれ台風の被害がめったにない柳井
に暮らせることをともに喜びましょ
う。

当日集まったボランティアは男性十名女性10名の総勢20名。以下に団体名を記し謝意を表したい。(敬称略) 柳井市役所生涯学習スポーツ推進課、同都市計画建築課、同商工観光課、柳井商工会議所、中央商店街振興組合、柳井縞の会、自遊倶楽部



年寄りの冷や水

岸井静治

後期高齢者となつてしまった。

この年になると、なぜかふるさと柳井のことが無性に気になつてきます。柳井の皆さんは今から40年後に柳井市の人口が一万五千人になるといふのを信じたい。今の人口は3万人であるので、半分になるか？という事です。人口が減っていくことはおおよそわかっています。人口がこのように具体的にはいえる、ずいぶん先の話に見えますが10年後といえど50歳です。ですからそんなに見えないほど先のことはなしではあります。それにしても40年後の一万五千人になった柳井はどのようなふうになっているのだろうか。市内の人口分布は当然大きく変わつてきます。市内地域の人口は間違ってなく激減です。これは各地域の出生数と、高齢者の人数の推移を見れば大体想定できます。このデータは行政で作った「まちひとしごと創成総合戦略」に載っています。

中心部は周辺部ほどではありませんがそれでもかなり減つてきます。そのようになかでも、矢張り気になるのは自分の身の周りです。まちの中央部について考えてみると、最近まちの周縁部の住宅用の土地造成がかなり進んでいています。住宅用地はかなり変わつてくるでしょう。そのうえ、買い物は郊外でできるわけですから、まちなか、すなわち旧まち地域が今以上にさびれていくことは間違いありません。このことは、今、目の当たりにしている現実です。では、白壁の街並み地域についてはどのようになつていくのでしょうか？この街並みについては今、私には見えません。

白壁の街並みは柳井市の観光の目玉になっています。本当にそうであれば、これから先、どのようなになるのかは、まちにとつても大変大切な問題のはずです。白壁のまち地域を時系列的考えればある程度の予測はできます。こういったことを、勇気をもつて予測し、問題点を明らかにしていくことは将来に向けた白壁のまちづくりを考えるうえで必要なことです。

私はそのキーとなるものは、住民と行政の間の協働力、だと思っています。まちづくりを、住民と行政の協働で進めるといふ進め方はまちの指針である「柳井市総合計画」にも明記されています。私はこの「協働」をうまく進めることができれば、きつといい方策が生まれ、いい形で後世につながつていくと思います。この白壁の街並みが40年後にはどのようなふうになっているのだろうか？この私の心配が、ただ単に「年寄りの冷や水」で済んでくれればいいと願っています。

これから私達年寄りではなく、若い人たちが主役のまちになつてほしい。

お披露目は8月6日

現在白壁の町並みでは、ほぼ毎週末の土日に「弘前ねぶた」の制作を進めています。6月11日、弘前ねぶた制作の説明会が開催され翌週から製作開始。8月6日の点灯式に併せてお披露目となります。

個人的な話で恐縮ですが、白壁のお店で金魚ちようちんや金魚ちようちん文具の販売を始めて20年近くになります。以前から『金魚ちようちん可愛いですね』からそれ以上なかなか拡がらない事にジレンマを感じ始めていました。多くの方々が長い年月を掛けて関り伝承してきた金魚ちようちん

をもつと深耕出来ないのだろうか。2015年、東京を中心に金魚ちようちん人気に火が付き始めてその想いはさらに強くなりました。その頃からいろんな会合や協議会で金魚ちようちんのグッズである弘前との交流を提言していました。が、チャンスが突然訪れます。

結果、2019年の当会、40周年記念行事のカードを切ることで、今の流れと続いていきます。弘前の今井さん、三上さんと知り合えたことは幸運でした。金魚ちようちんと白壁の町並みの組み合わせは足し算ではなく2乗に比例し交わり合う事で4倍の力を発揮すると思っています。金魚ちようちんの生みの親である熊谷林三郎さんの末裔である熊谷元喜さんが、この令和の時代に当会幹事として活躍頂いていることも不思議な巡りあわせと感じております。令和の北前船プロジェクトはまた始まったばかり。決して奢らず欲張らず。この町並みに程よい賑わいが続くよう、会員の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

(写真) 有志によるねぶた製作風景



柳井の地図絵図

岸田稔明

第三十四回 周東鉄道株式会社線路予測

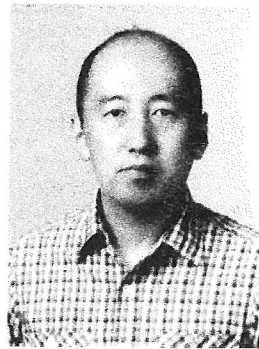
平面図(山口県文書館蔵)

今回は、大正時代の柳井津周辺の鉄道敷設計画について、「周東鉄道株式会社線路予測平面図」よりみていく。

この図面は、山口県文書館に所蔵されている「平生伊陸間鐵道敷設一件」に附属している。一件に、大正十一(一九二二)年から翌十二(一九二三)年までの文書と図面が綴られている。なお、図面上では「株會社」となっているが、「株式會社」の誤りと思われる。

周東鉄道株式会社の本社は柳井町に設置され、資本金は百二十万円であった。

同社は、大正十一(一九二二)年十一月十日付で、鉄道大臣と山口県知事に「地方鐵道敷設願」を提出している。発起人は、

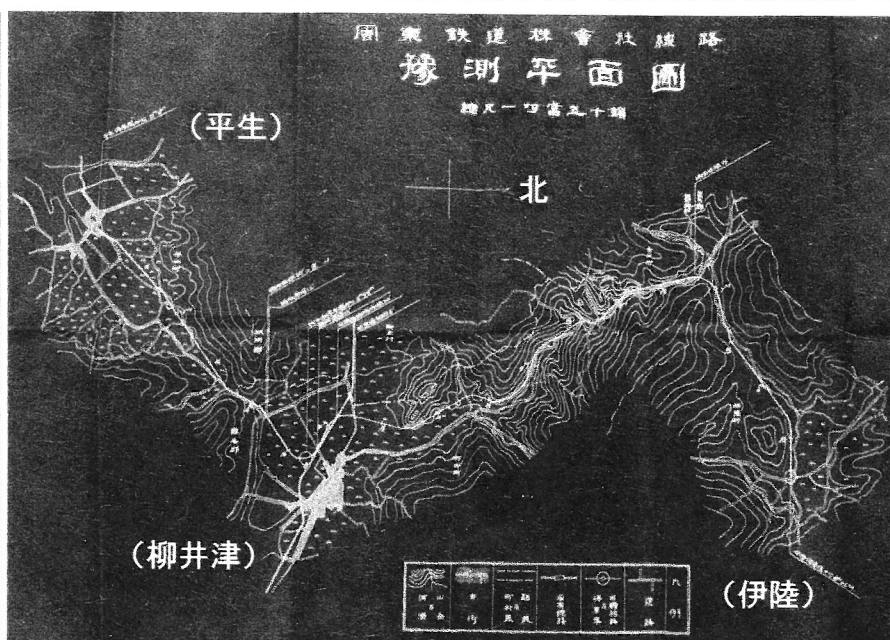
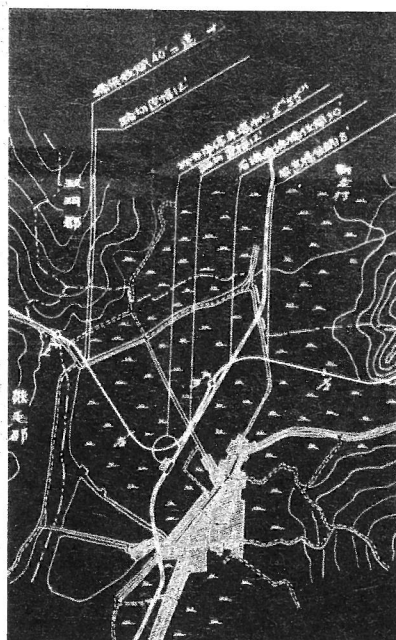


吉木陽衆議院議員を筆頭に、柳井町から皿田千蔵、福田清一、塗師田吉治郎、小田周一、稲田市太郎の六名、平生町から二名、

広島市から三名、計十一名の連名となっている。

ルートは、平生町西の町の演劇場付近を起点として、平坦な田んぼを過ぎ、田布路木峠を越え、柳井津駅(現在は柳井駅)を経由して黒杭など山間部を通り、伊陸村に至る全長八哩六十六鎖(約二十九・四キロメートル)となっている。線路は単線、動力は電気で六百ボルトの架空線を張り、軌間(線路の幅)は三呎六吋(三フィート六インチ、一〇六七ミリメートル)で、現在の山陽本線と同じである。建設費は百二十万円、開業後は一般旅客貨物の運輸営業(貨物は木材、薪炭、穀物肥料、海産物その他)を予定していた。また、平生、宇佐木、田布路木、柳井津、瀬戸川(瀬戸側)、下馬皿、中馬皿、黒杭、松山、藤ノ木、伊陸に駅が出来る予定だった。

岩徳線の敷設が決定されたため、結局、鐵道敷設は実現しなかった。もし敷設が実現し、現在も存続していれば、田布路木峠から柳井警察署付近まで国道一八八号と併走し、左に急カーブをとり、柳井駅に至る。駅を過ぎ、ミスターマックス柳井店のあたりで十六パーミルの上り坂が始まり、瀬戸側の東条大橋西側で右にカーブしながら山陽本線を跨ぐ。ここからゆめマート柳井店のあたりまでは、高架橋が連続する。馬皿から伊陸の松山までは、ほぼ二十五パーミルの急な登り坂が続く。そして二十五パーミルの下り坂で伊陸に至る。町の構造もかなり変わっていたはずである。



【周東鉄道株式会社線路予測平面図(左側は柳井津駅付近拡大図)(山口県文書館蔵)】地名等を加筆

商都柳井の歴史 その廿一

松島 幸夫

柳井津の経済発展(十)

豪商として世に尽くす心痛

前回は、先祖が苦難を乗り越えたおかげをもつて、皿田家初代千蔵が貞千を開業し、発展していく経緯を紹介しました。

回船を所持して、九州などから綿花を仕入れ、柳井縞の製品にして、大坂などで売り捌き、蓄財をしました。初代の千蔵は積極果敢な男でしたが、同時に慎重さも持ち合わせていました。綿花を積載した回船での航海中、前途に不安を感じます。嵐に遭遇し、回船が沈没した際のリスクを計算したのでしよう。柳井の地元で手堅く商売ができる方法を模索しました。

ひらめいたアイデアが酒造です。当時、柳井には5軒の酒造業者がいました。貞千は琴石山の伏流水を利用して、地道に高品質の酒づくりを進めます。

初代の千蔵が亡くなったのは嘉永元年(1848)です。その5年後にはペリーが浦賀にやってきましたから、

明治維新の大転換期に入ります。

貞千・琴泉酒造の経営は必ずしも順風満帆な時ばかりではありません。例えば4代目千蔵は、明治24年の柳井・別府間の連絡船運航に関与しますが、収支が悪く、病気になるに陥り、たいへんな心痛をしています。

一方で、大活躍もしています。明治40年に、ガス会社を設立しています。おかげで柳井津町の夜が、ガス灯によって明るく照らされたのです。ガス販売は好調で、広島にも支店を出しました。

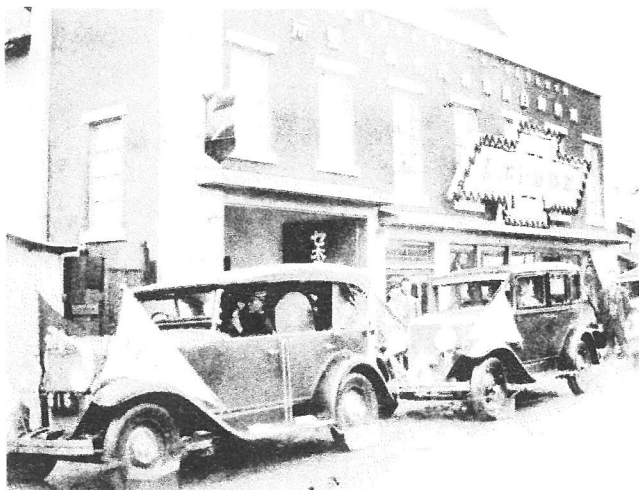
また、玖珂郡酒造組合の長に就任し、弟をアメリカのピッツバーグへ内務省の国費で研修派遣させています。あるいは電灯会社を設立しています。推されて政治活動もします。郡会議員や県会議員に当選しています。柳井信用金庫の組合長にもなっています。

さらには、酒の販売に貨物自動車が有用であることからモーターゼーションを予見し、4代目千蔵は南朝鮮自動車会社を買収し、社長に就任して、経営に乗り出します。アメリカのゼネラルモーターKKと業務提携をして拡販をしています。彼の世界経済を見通す眼力の確かさを証明するものです。とは言え自動車会社の経営にも起伏があつて、事ある毎に釜山に渡つて、打開策を考え、東奔西走しています。

4代目の千蔵を見ただけでも、大きな浮き沈みがありました。彼の記録には「心痛」や「胃痛」の文字が目につきます。最後には「胃がん」に罹っています。周囲から見れば、財力を持ち、社会的信用のある家を、

羨ましいと感じるでしょう。しかし、その財力と信用力を維持し拡大するには、言語を絶するストレスがかかったのです。彼は経済界や政界だけでなく文学界でも活躍しました。晩年の和歌に「世のために心を配るかいあれば楽しき事の一つなりけれ」と詠んでいます。自分よりも世のために尽くすことを、最優先に考えたのです。

4代目千蔵の永眠にあたって、「友千鳥」と題した追悼冊子が発行されました。本の題字は大蔵大臣・賀屋興宣の雄筆です。「友千鳥」には多くの追悼の和歌や俳句が載せられていますが、地元はもちろん、外国からも寄せられています。「友千鳥」には皿田家の家系も載せられています。そこには、先祖の苦勞も隠すことなく詳細に記されています。先祖の苦難を忘れないことが、我々が生きるエネルギーになることを論じています。



南朝鮮自動車会社全景

資料館便り

『明るい兆し』

山近 絹代

今年のゴールデンウィークは、三年ぶりにコロナウィルス禍による行動制限がなくなり、多くの方がこの地を訪れ、四月～六月の入館者がコロナ前の7割に！

四月以降、新潟、愛媛などの遠方からのツアーもあり、「明るい兆し」が見えてきました。白壁の町並みを守る会の皿田事務局長に、市内の小学校から、白壁の町並み見学の前に、柳井の歴史を勉強したいので、誰か講師をとの依頼があった。柳井の歴史を伝えていくことも大事な役目と思い、この依頼を引き受けて、柳井の古代から近代までの歴史を知りうる限り、お話しさせていただいた。

授業の後の町並み見学当日は、授業で伝えたことに基づいてご案内。宝来橋付近で地形についてお話をすると、児童のみんなは「ここは昔は海で干拓されて川ができたんだ。」と授業で話したことをちゃんと理解してくれていました。

また白壁通りの皿田宅を特別に奥まで見学させてもらい、細長い家の造りを実感しても

らったり、当主からは不浄門の説明もしていただいたりと、特別感満載の見学会でした。

こんな見学会を通して、柳井は歴史があり、観光でも喜ばれる素晴らしい町であることを誇らしく思ってくれる児童たちが増えそうな気がします。こんな授業を企画してくれる小学校に感謝！明るい兆しが射しています。

さてお鐘金魚が町並み資料館の金庫の前に設置されて八月六日で十年を迎える。

ここを訪れた方々が幸せになってほしいとの思いから置かれたが、本当に多くの方に幸せを送り、そのお礼を伝えに來られた方は数知れず。私もたくさんの幸せのお裾分けを頂いた。

幸運の内容は多岐にわたりますが、直近では「収入が二倍に増えた。」と広島から家族総出で報告に來られた。また「一度では受からないといわれている昇進試験に一度で受かったと報告いただいたのは松山からのご夫婦。恐縮するくらいお礼を伝えていただいた。

お鐘金魚設置十周年の記念イベントを柳井商工会議所の協力で、八月六日から十一日まで開催予定。益々たくさんの方に幸せが訪れそうな予感！

【編集後記】

★8月6日に一体どんなデザインのねぶたがお披露目されるのか今から楽しみだ。3年半前に始まった弘前との双方の人的交流がいよいよ目に見える形で姿を現しつつあるのだ。なんかワクワクして来ませんか。

★台風を回避するため当日に七夕が既に片付けられて立っていなかった事が悔やまれてならない。いま少し若ければ何が何でも再度立てるところだったが実働部隊が後期高齢者と半病人とあっては如何ともし難い。岸井会員の云う通りこれからの町づくりの主役を早急に若い人たちにバトンタッチしていかなければならない。

★安倍晋三元総理が凶弾に倒れ死亡された。日本だけでなく世界にとっても重要な指導者を失うこととなった悲しい出来事。心よりご冥福をお祈りしたい。(事務局 皿田)

令和4年度第1四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和4年/1月～3月	令和4年4月現在累計
町並み資料館	4,027	300,456
	前年同期比 198.7%	
松島詩子記念館	1,100	109,738
	前年同期比 222%	